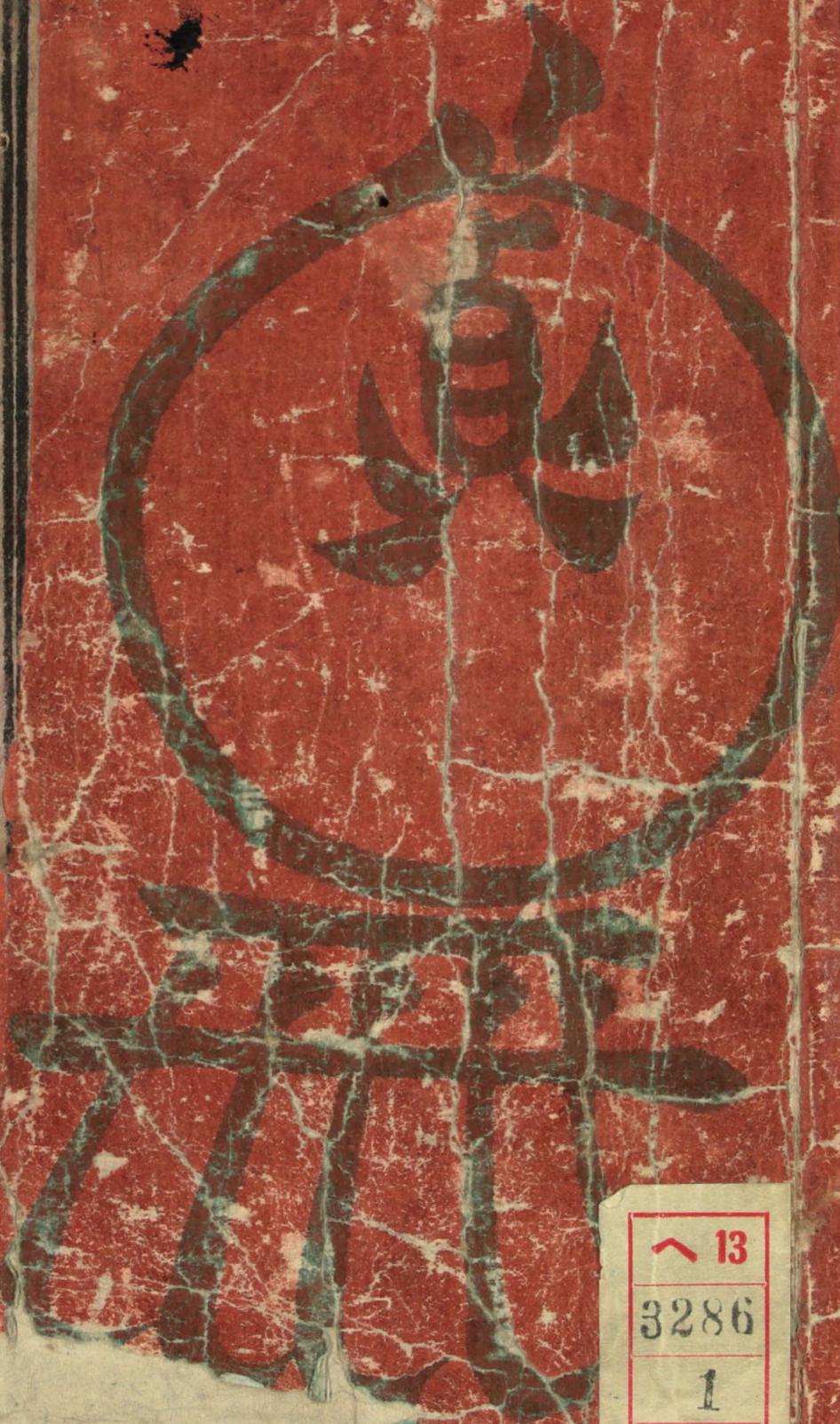


東海
中
膝栗毛殺端

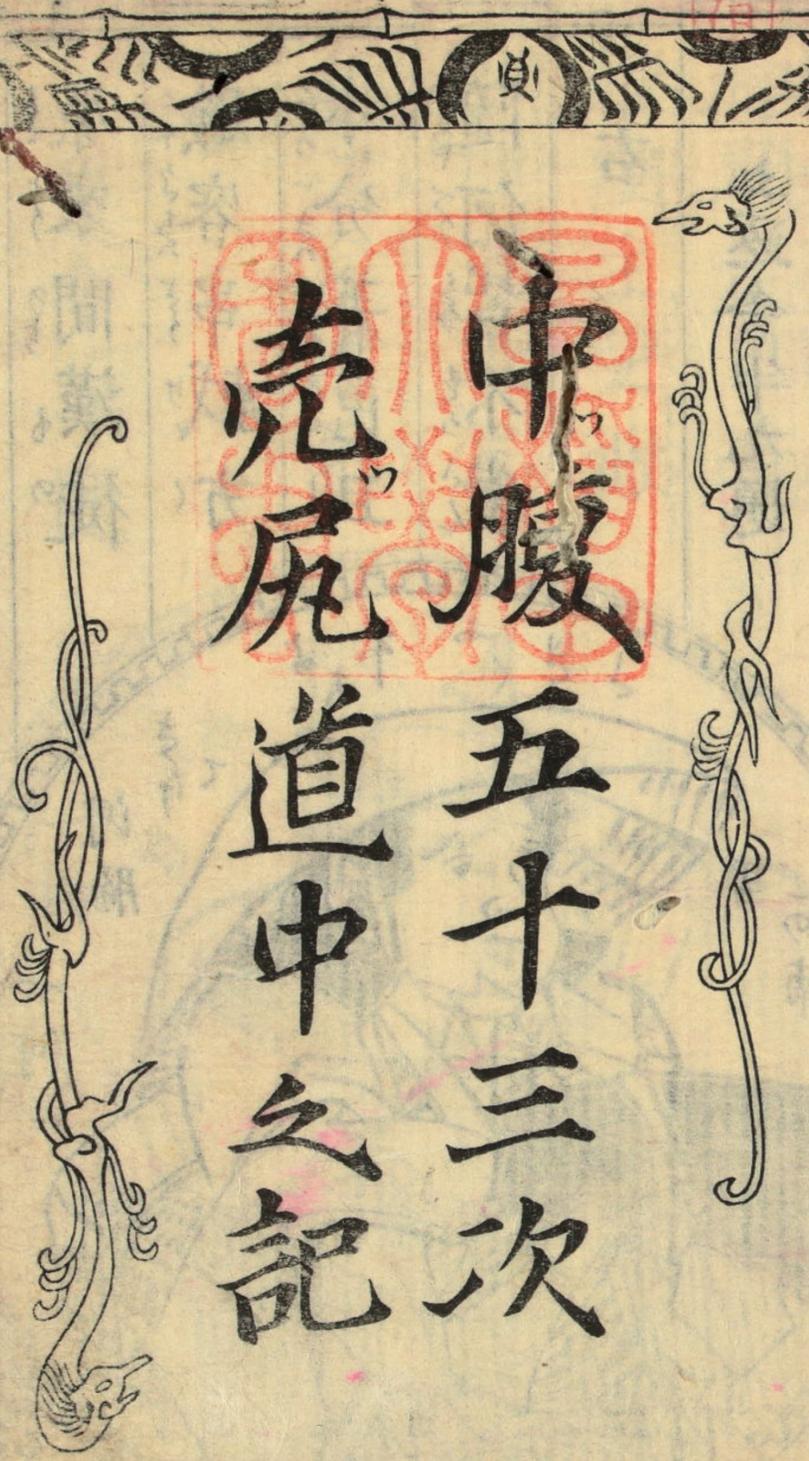


13
3286
1



本清

中腹五十三次
壳尻道中久記



十返舎一九作

東海道中

膝栗毛 十八冊



弥治郎賛

原來間漢徒

臉容串戯方

本分著色且

隨何皆不當

右

五返舎半九題



喜多八已賛

起頭是串童

起陋主兒微

生理李即翼

徇漢倍歩飛

名

愚舎一得題





十返るま一九

体めいひ人

ちらぬあううた

えん甲あううた

おのころう甲いしこ

藤栗毛發端序

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

鬼門開外莫道遠五中

驛も皇別やいそ旅山谷の詩

子探も。東海のそとを年々と次に

室らあふと園里節必衛に

又高毛とあふとく標西外も書の

昔^{あつ}も^もと^もこ^もん^もを^も身^も所^も何^もの^も報^も馬^も
少^{せう}く^くい^いて^て人^{ひと}吟^{ぎん}る^るを^を相^{あひ}比^ひ乃^の
版^{はん}え^えを^を報^{ほう}と^とら^ら何^{なん}も^も書^{しよ}く^くも^も
故^こ祥^{しやう}は^は禁^{きん}止^し人^{ひと}あり^りし^し編^{へん}叙^{しよ}之^之故^故
田^{でん}部^ぶ林^{りん}通^{つう}一^{いつ}馬^ばと^と命^{めい}を^を京^{きやう}大^{たい}阪^{はん}
お^およ^よと^と花^{はな}を^を物^{もの}と^と玉^{たま}博^{はく}を^をの^の長^{ちやう}丁^{てい}切^{せき}を

歴^{れき}し^し傳^{でん}の^の計^{けい}任^{にん}年^{ねん}々^々年^{ねん}
續^{ぞく}五^ごの^の命^{めい}は^は種^{しゆ}の^の子^しに^にし^しる^る孫^{そん}は^は孫^{そん}
人^{ひと}制^{せい}を^を多^たの^の新^{しん}田^{でん}共^{きやう}國^{こく}の^の龍^{りゆう}
馬^ば一^{いつ}に^にい^いて^て々^々々^々々^々々^々の^の外^{がい}に^に車^{しや}に^に
い^いれ^れを^を津^つ木^きの^のち^ちが^が出^では^はし^しと^と何^{なん}も^も人^{ひと}を^を行^{ぎやう}は^は
か^かこ^この^の起^{おこ}る^るは^はと^と甚^{しん}と^と。東^{とう}都^とに^に



あつれ
まへ八めかれ
がむしめあか
の五めよま
さうごう



式磨五

あつれ
まへ八めかれ
がむしめあか
の五めよま
さうごう

近頃雪唐なるの押史通と類して
新古押史の作者雪堂の出所事跡を
記しつるに類してつるよき志、粗詰と留し
劣して切るき押史不通の書と留し
平が藤栗も八編ありて終ると而已雪
唐が書する八續其篇の半つる言文とあり
さるるべし現に當年續五編に至れり
其あつれつるをみるに一年

道中藤栗毛發端

本清

東都 十返舎一九編

武藏野の尾花がまを急小かろる白雲と海へむむじく
浦の公占を鴨 所澤の夕暮る小巻をて仲の町乃夕
景夕とをさるる時のあつれま。今八舟の内小鮎を
渡むる道の水長ホーて土居造の白壁身其はま
香の切揃以俵被色傘の金所中が地を唯も通
さぬた江戸の惣昌代國の目より入大道小金浪も上時

古くあるやうにおもひはせぬでもひと種とをさして出つけ
あるかの幾千もの敷限もあつき中子生國を
駿列府中折面至治高亭を漸といふの親代
と里相應の商人ホして百二百の小判の何時でも
困るぬやうの身分ありが守部川町の多酒ふるま
高上落級者兼ふぬ産は部が抱の鼻を助とつる
小お込木の道ふ孝行をみて黄金の釜と堀のいせ
つれづれにねび敷きのあつたけをそとてハ身分は
おとて途方もなき穴を堀りてあななく屍乃
仕舞の若流とつる屍を枕けて府中の所を
欠かぬとて

借金と家士の山ほぐあるゆへ
そこを兵迹を後河あつる

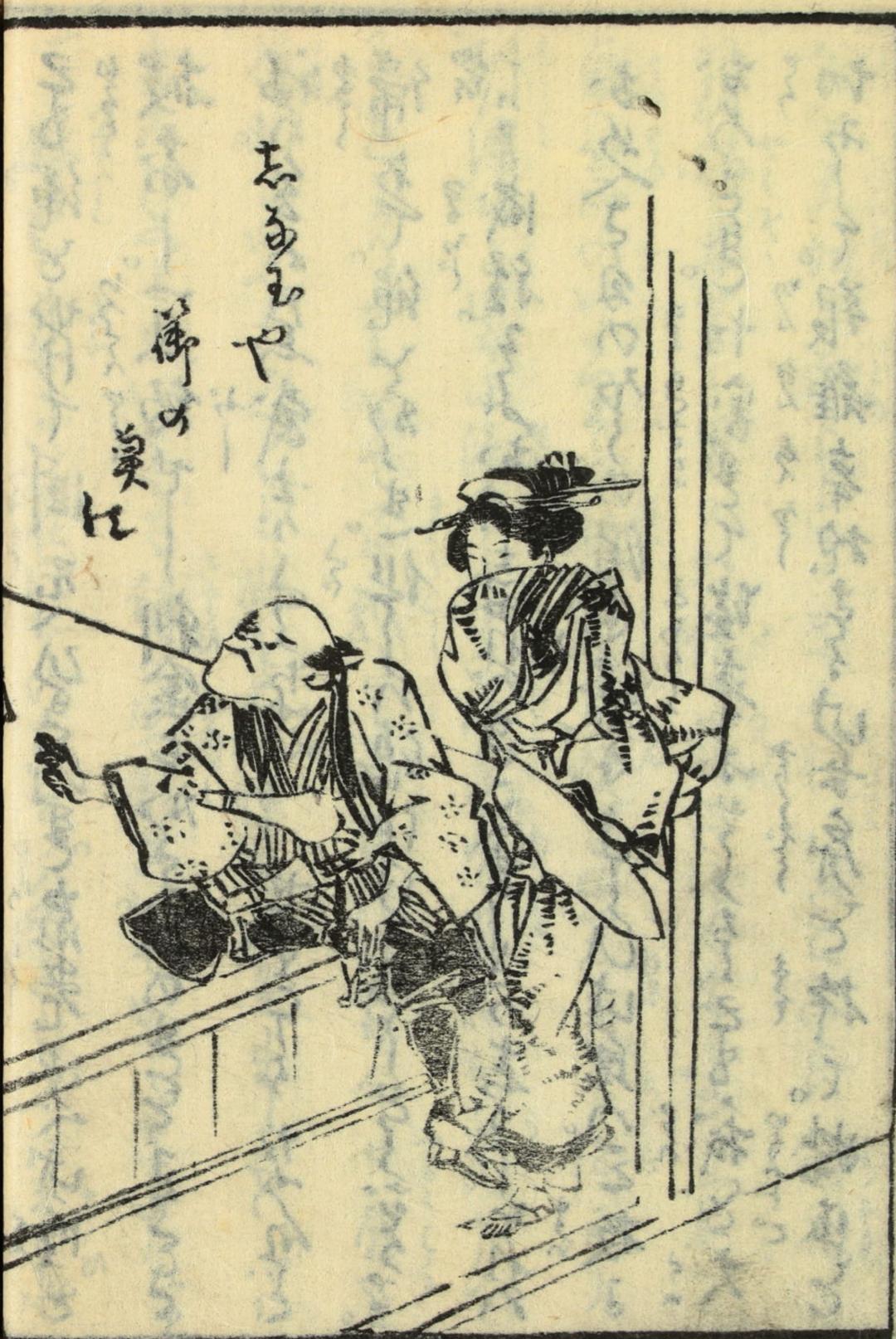
御足久保の茶あつたを吐きし所ては小きさう
神田の八百場は新道の小借家住居し
野末小住せ江戸あゝの奥の美味し豊徳座の細



橋本三郎
金丸

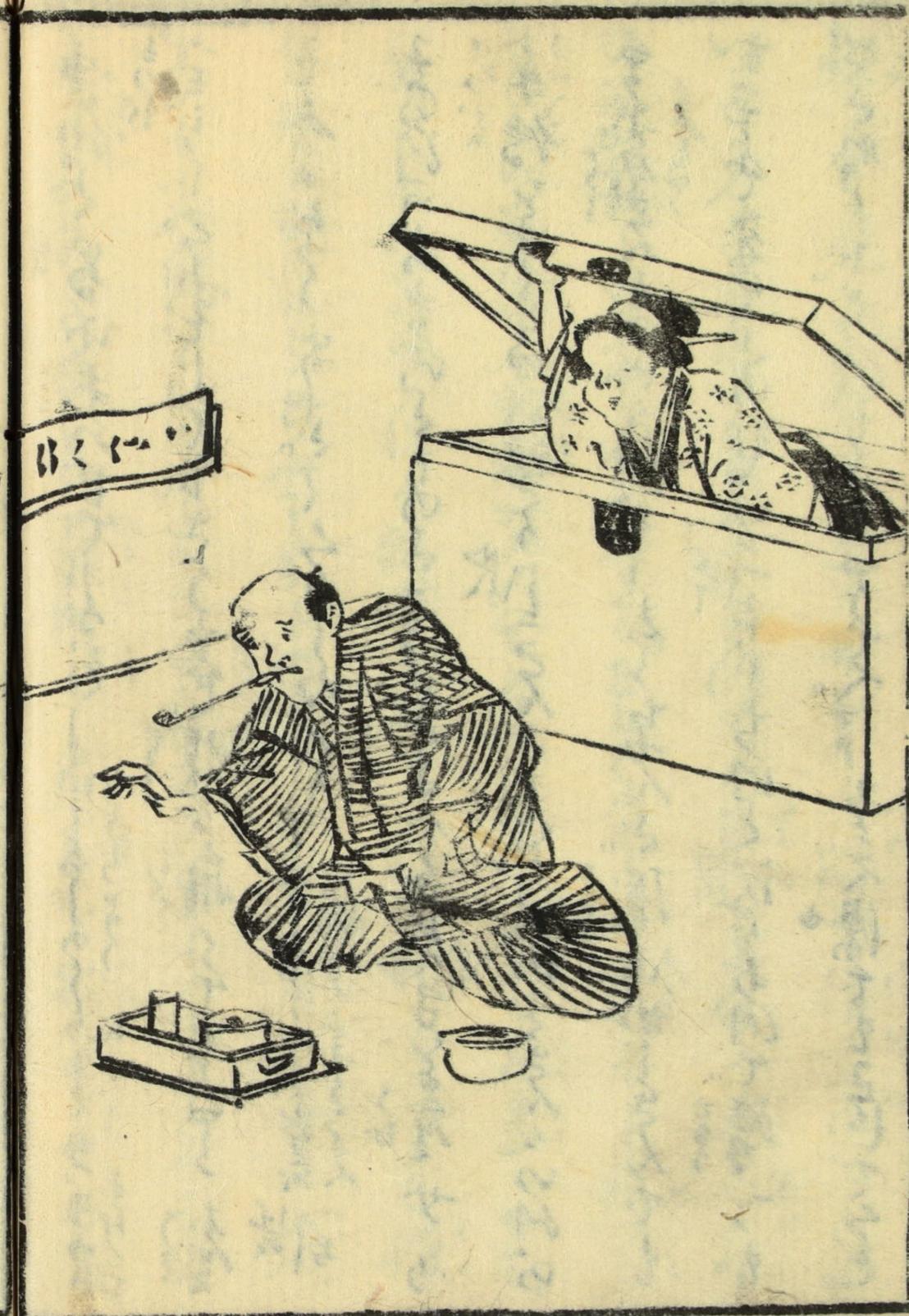
是之也
之也
之也
之也

公と大切に新らむと妹、ちこまゝに後初子
の約束せし男の外。他へ縁さばくまどこの是は
貞女等のいふ事と教も不夜子思ふ事し。能く
別居する男小添せよとの由も有難くお受かりて
そとよりいふ事まで存続する。ふたりの男今女房と
持ある。四人までごとくと妹とありは是は海軍中士とて
玄みねとともいひし侍が。生起さげてかゝる事とて
サ。妹もを妹よと名をそのこと。いふことハハハハハ
子も縄とせけて固えへひまひも。お老中へは後と
披系し。一旦約せし利益をかゝるおの事とて
福がまおれを去らして。おんサア。せまこと。が。あゝと
掃ちて。縄とあはせ。世への端はけてめし。さうさうさ
ハア。成程。そふおの事なれば。まこと。あゝと。あ
あゝ。さあ。おの事。の。得。手。續。手。と。い。ひ。け。身。の。之。扱。子
おん。さ。さ。し。切。害。を。て。後。卒。不。せ。う。る。こ。も。我。と。大
切。し。て。報。難。卒。抱。さ。る。け。女。房。を。拵。て。妹。也。と



捨たぬはけで。行付らんと。まがしのまねて飛ぶ。うら。
潤まよふが。ちろく。女房のあふとへ。さあけ。とる。一ふ
は。よ。て。か。ま。も。よ。の。捨。た。ぬ。あ。り。は。中。へ。こ。え。後。六。鬼。の
子。り。や。ど。り。て。お。よ。ぶ。が。金。入。り。の。て。ら。ま。げ。年。時。女。房。の
あ。ま。い。お。よ。り。の。り。の。あ。げ。と。せ。ね。ま。と。か。ん。で。ま。さ。な。ま。ら。ち
ろ。く。と。お。ん。で。ま。ん。ま。と。上。首。尾。山。や。り。の。あ。の。が。彼。持
兼。金。の。ま。り。の。め。の。い。ま。く。い。ま。お。ま。の。ま。り。ま。よ。く。
ア。ヤ。ら。の。ま。り。ま。よ。く。あ。ま。い。金。が。ま。り。ま。よ。く。ま。り。ま。よ。く。

腹が痛。ま。り。ま。よ。く。一。刻。も。ま。り。ま。よ。く。と。せ。ま。こ。ん。で。ぬ。
ま。り。ま。よ。く。そ。と。で。今。夜。東。て。う。ら。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
あ。ま。い。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
お。ら。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。
酒。の。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。と。ま。り。ま。よ。く。



志ろ。其内が及ぼせぬ。又まのうちはトあらうとて

とていふは出づる川にわたりて教をたてしむる事なれば。是れ買

いのとていふはあつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

しの志はふまてえ移入トはしる。二まをこいしらせと

とていふはしんしん書かす。神のこゝろにうら

しの志はふまてえ移入トはしる。二まをこいしらせと

とていふはしんしん書かす。神のこゝろにうら

しの志はふまてえ移入トはしる。二まをこいしらせと

り。おらうが内は寺があらうとていふはあつちのしんしん書かす。

移入^{しん}かす。あつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

あつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

とていふはしんしん書かす。神のこゝろにうら

あつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

あつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

あつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

あつちのしんしん書かす。神のこゝろにうら

菰菘草

かき草

くさ

かき草

かき草

Handwritten text in a rectangular frame, likely bleed-through from the reverse side. The text is written in a cursive style and includes several lines of characters, some of which are circled or underlined. The characters are difficult to decipher due to the bleed-through and fading.

Handwritten text in the left margin, written vertically. The characters are dark and appear to be a signature or a note.

